

生駒で小水力発電開始

受水時の水圧を利用した小水力発電施設が生駒市山崎町の山崎浄水場に完成し、19日に稼働を始めた。再生可能エネルギーの固定価格買取制度で、水道事業者としては初めて認定を受けて発電。20年で約8千万円の黒字を見込んでいる。



完成セレモニー後、小水力発電施設を見学する関係者ら＝生駒市山崎町

20年で8千万円の黒字試算

市によると、山崎浄水場では井戸水のほか、水源として県営水道水を購入。受水の際、これまでは水圧を下げるために減圧弁を使用していたが、新しい施設は水車を回すことで減圧すると同時に発電をする仕組み。出力は40キロワットで、一般家庭62戸分の年間電気使用量を賄える。また年間で108トンの二酸化炭素を抑制できるという。

市は発電した電気を使わず、すべてを固定価格買取制度で1キロワット時35円70銭で売電する。総事業費として約1億4千万円かかったが、管理運営や補修などを考慮しても20年間で約8千万円の利益が出ると試算している。

市は、東日本大震災に伴う原発停止を受けて、夏場に平日閉庁をしたり、市役所の冷蔵庫を削減・更新したりして節電。市民に対しても市民プールの無料開放

や節電コンテストで全市民的な取り組みを展開。水力発電はそうした節電、環境対策の一環で導入された。この日、浄水場であった完成セレモニーには、関係者約50人が出席。山下真市長ら3人がスイッチを入れ

た。山下市長は「制度の認定を受けての運転は（水道事業者では）全国で初めてなので、責任は重い。全国的にひっばくしているエネルギー問題の解決に貢献し、地球温暖化対策にもつながるはず」と話した。